

くっぎだん

■病院理念……

わたしたちは、「人道・博愛」の赤十字精神に基づき地域の医療に貢献します。

■基本方針……

- ① 地域の基幹病院として、説明と同意に基づく「高度」「良質」な医療を提供します。
- ② 急性期病院として保健・医療・福祉・介護機関との連携を進め、一貫した医療を行います。
- ③ 救急病院として24時間地域の健康を守ります。
- ④ 赤十字病院として災害救護に貢献します。
- ⑤ 教育病院として次世代の医療人を育てます。



大空からすずらんが素敵な音楽と共にやっアきました!

6月3日、雨上がりの日差しが気持ちよく差し込む午後、ホスピタルモールはすずらんの香りと美しい音楽でいっぱいになりました。

今年も全日空客室乗務員の方と米子鬼太郎空港の方々からすずらんの贈呈があったからです。そして、オープニングコンサートをジョイフル♪ジョイフルさんにしていただきました。

ジョイフル♪ジョイフルさんは松江市を中心に山陰両県の学校や施設、病院に音楽を楽しんでいただきたいと活動されているアンサンブルチームで、当院の患者さんたちにと依頼したところとても快く引き受けてくださいました。美しいロングドレスに身を包んだ5人の歌姫と演奏家の方たちが、優しく素敵な音楽を集まった患者さんたちに贈ってくださり、涙を流しながら聞いてくださった患者さんもうらっしゃいました。テネシー・ワルツや愛の讃歌、ラストの曲「花は咲く」は会場に集まったみんなで合唱しました。

愛に包まれたような雰囲気の中で、すずらんの贈呈式に。CA（キャビンアテンダント）の方から、鉢を3鉢と500枚のおしりが秦院長、吉田看護師さん（8階西病棟）、患者さんを代表して山木さんに贈られました。今年で60回目を迎えるANAからのすずらんの贈呈、赤十字病院との長い歴史にその深い想いを感じさせられました。その後、会場に居られる患者さんたちにもおしり（羽生結弦選手のサイン入り）が手渡され、帰り際に患者さんから「心がじゅんときたよ。」と声をかけていただきました。

患者さんの笑顔、CAの方が患者様に話しかけられる時の笑顔、まわりでその光景を見つめる皆さんの笑顔。すずらんの花言葉「しあわせ」を感じたひと時でした。

医療社会事業課



前期医療安全研修会の開催について

医療安全推進課長 湯浅 誠一

病院が医療を提供する上で根本的かつ最も重要なことは「安全」であることです。当院でも患者さまに安全で安心な医療を提供するため医療安全に関する職員教育・研修、調査、予防活動等を行っています。

患者さまにご協力いただき診察、検査等の際、お名前をフルネームでお答えいただくのも医療安全対策のひとつです。

職員研修については、法令に



より年2回、全職員を対象とした「医療安全に関する研修会」の実施が義務付けられています。今年度も6月19日から4日間、「前期医療安全研修会」を開催しました。

今回は、全職員が知っておくべき医療安全に関する研修とKYT研修(危険予知トレーニング)と呼ばれる危険を予知し、対策を考える研修を行いました。

KYTとは、危険に鋭く気付くための危険感受性の訓練で、危険(きけん)のK、予知(よち)のY、トレーニングのTをとってKYTといえます。企業の製造現場や建設現場などで労働災害事故防止などの安全防止活動に大きい成果を上げており、この手法を医療現場の安全活動に応用し、リスク回避に役

立てるものです。

具体的には写真やイラストを見て、①どのような危険が潜んでいるかを考え、②その中から特に注意する危険を絞り、③どのような対策ができるかを考え、④最も重要な対策を絞り込み行動目標を設定するという手順で進めていきます。

このようにKYTの目的は、職員の危険に対する感受性を高め、さらに物事への集中力、問題解決能力を向上させるところにあり、医療現場に潜む様々な危険を未然に防ぐための「気づきの訓練」でもあります。今後このような研修を重ね、より安全で安心な医療を提供できるよう安全レベルの向上を図って参ります。

院内感染対策研修会

最近院内感染という言葉

を耳にするのは、韓国で5月以降患者が発生した中東呼吸器症候群MERSが新しいと思います。韓国内の病院で院内感染により感染が拡大したと報じられています。



それほど院内感染とは恐ろしいもので、松江赤十字病院では、「院内感染を減らす、拡げない」という目的のもとに、毎年2回テーマをかえ、全職員対象(委託職員も含め)で研修会を開催しています。

6月19、22、23、25日で院内感染対策研修会を医療安全委員会と患者サービス部会の合同で開催しました。

今回のテーマは「みんなで取り組もう！感染対策」という内容です。すべての職員に実施してもらうこととして手洗いははじめ、いますぐできる感染対策などのポスターをみて、アンケートを通して、私たち職員の役割を再認識しました。

多忙な医師や夜勤あけの看護師など時間をさいて研修会に参加して、ほぼ100%の出席率でした。病院は感染症がおこりやすいところですが、今回のような研修会や講演等で院内感染を見直し、病院全体で院内感染対策にとりくんでいきます。

5~6月
introduce

採用医師紹介 Hello Doctors



整形外科 松浦 幸男

足腰の病気や、万が一けがをされても、できるだけ手術をしなくてもすむように、また手術をする場合でも、できるだけ負担の少ない治療を心がけます。



研修医 北尾 苑子

研修医の北尾苑子と申します。9カ月という短い期間ですが、頑張っ勉強したいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

島根県立図書館とのタイアップ事業



ハートラビ

「意外に知らない!? がんのこと」開催

医療社会事業課 奥 公明



また、市民公開講座として同テーマで10日に磯和副院長、24

をさせていただきました。蔵のがんに関する図書の特集
ター)を掲示。図書館からは栄養・リハビリなどの情報ポスター)を掲示。図書館からは所蔵のがんに関する図書の特集
をさせていただきました。

松江赤十字病院がん相談支援センターでは、島根県立図書館を舞台に、当院と同図書館のタイアップ事業「意外に知らない!? がんのこと」を開催しました。期間は6月いっぱい、期間中図書館の二階回廊に当院オリジナルの「がん情報シート」(がん種ごとの解説やがんに関する栄養・リハビリなどの情報ポスター)を掲示。図書館からは所蔵のがんに関する図書の特集をさせていただきました。



や「良性と悪性の違いは？」など、テーマどおり氾濫する「がん

の市民の皆さんで会場は満員となりました。同じテーマでしたが、お二人の講演は…、外科系と内科系の違いか？はたまたキャラクターの違いか？動画を沢山お見せして丁寧に分かやすく解説された磯和先生と、スクリーンの前で身振り手振り、時折聴講者にマイクを向けるなど笑いの絶えない講演会となった内田先生。ほんとに同じテーマで話されているの？と思わずにはられない講演会となりました。しかし、いずれの講演も「がん細胞が一体どれくらいのスピードで大きくなるの？」



日に内田検査部長が講演会を開催、がんや健康に関するお持ち

情報」のなかで、意外に知られてない「がんの世界」を分かりやすく解説され、図書館の研修室いっぱいに来場いただいたみなさんに大変好評でした。

これからがん相談支援センターでは、色々な切り口でがんに関する情報を発信していきたいと思います、どうぞご期待ください。



夏野菜の重ね蒸し

栄養課 管理栄養士 昌子 敏子

今回は、重ね蒸しをご紹介しますと思います！

重ね蒸しは、お鍋の中でいろいろな食材を重ねて蒸すことにより、食材同士がそれぞれのもち味を醸し出して、味も美味しくなります。そして、出来たものでいろいろな料理に応用すると、時短にもなります。



作り方

- ① ボールに底からしめじ、じゃがいも、大根、かぼちゃ、小玉ねぎ、人参の順に重ね一番上にひとつまみの塩をふり、ラップをして蒸し器に入れ、強火で約40分蒸す。蒸し汁はとっておき、水を加えて100ccにする。
- ② オクラ、アスパラガス、いんげんは塩ゆでにする。
- ③ フライパンにオリーブ油をひき、輪切りにしたナス、プチトマト、ししとう、いんげんを塩少々で炒める。
- ④ ①の野菜もオリーブ油で焼いて、焼き色をつける。
- ⑤ ごぼうは千切りにし、中温で揚げる。
- ⑥ 器に盛り付け、夏のソースをかけ、ごぼうを飾ればできあがりです。

材料 (5人分)

人参……………1/2本
小玉ねぎ……………3個
かぼちゃ……………1/12個
大根……………1/8本
じゃがいも……………1個
しめじ……………50g
オクラ……………5個
アスパラガス……………2本
ナス……………1/2本
プチトマト……………5個
ししとう……………5個
いんげん……………5個
ごぼう……………1/4本
オリーブオイル……………適宜
サラダ油……………適宜

【夏のソース】

野菜の蒸し汁……………100cc
味噌……………大さじ1.5
白ゴマペースト……………大さじ1.5
オリーブ油……………大さじ3
酢……………小さじ4
粒マスタード……………小さじ3



「日本縦断キャラバン」

9階東病棟師長 松本 恵子

みなさん、骨髄バンクって聞かれたことがありますか？

今年はこの骨髄バンクができて25年になるそうです。この25周年を記念して、全国各地をドナーになられた方たちが交替でキャラバンカーを運転していくというイベントが行われました。4月24日に沖縄県那覇市をスタートし、2カ月間をかけて北海道札幌市まで縦断するというものです。

5月9日、わが松江赤十字病院にもこのキャラバンカーがやってきました。島根県は益田、浜田、出雲と回って松江にやってきました。当院は骨髄移植認定施設になっており、骨髄バンク連絡協議会の方から当院へのメッセージをいただきました。その後キャラバン隊と連絡協議会の方に、着物を着た当院職員から抹茶とお菓子が振舞われ、松江のころでおもてなしをした後、みんな記念撮影をしました。また、キャラバンカーにはメッセージを記入したステッカーを貼ることができ、私たちもメッセージを残しました。この車にはソフトバンクの王貞治さんのメッセージサインも書かれていましたよ。

いろいろな人の思いを載せたキャラバンカーの活動は、全国骨髄バンク推進連絡協議会のホームページで報告されています。



いろいろな人が乗り継いでいく本当に命のリレーだと感じました。そして、日々辛い治療を一生懸命耐えて頑張っている患者さんを看護させていただく中、患者さんの役に立つように献血やドナー登録をもっと呼び掛けたいという気持ちになりました。

※6月28日、ゴールの札幌へ無事に到着されました。



+ 松江赤十字病院 『患者さまの権利章典』

「医療は、患者さまと医療提供者とのお互いの信頼関係をもとに協力して作り上げていくものであり、患者さまに主体的に参加していただくことが必要です。」
このような考え方にもとづき、松江赤十字病院は、患者さまの権利や義務についてつぎのとおり表明します。

1. 患者さまには、医療提供者との相互の協力関係のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 患者さまには、診療に関して十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
3. 患者さまには、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについて十分理解できるまで質問する権利があります。
4. 患者さまには、医療従事者が提案する治療法に対して自らの意思で決定できる権利があります。
5. 患者さまには、診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られる権利があります。
6. 患者さまには、医療提供者に対し患者さま自身の健康に関する情報をできるだけ正確に提供する義務があります。
7. 患者さまには、病院の規則を守る義務があります。